JSDカンファレンスの予稿作成方法

Template File for Preparing the Manuscript

日本　太郎（Taroh NIHON）

日本システム大学

taro@jsd.or.jp

学会　花子（Hanako GAKKAI）

日本ダイナミクス

hanako@jsd.or.jp

**Abstract**: When preparing the manuscript, carefully read this sample as well as the instruction manual for the manuscript of the Journal of Japan Society of System Dynamics. This sample was prepared using MS-WORD. （150～200 words）

キーワード：キーワード１、キーワード２、…（5～10語）

**要旨**：原稿作成にあたっては、本フォーマットのスタイルに従い、推敲を重ねた原稿を提出すること。原稿は、MS-WORDにて作成すること。なお、本ファイルの内容は、日本機械学会発行の「投稿論文作成について（日本機械学会指定テンプレートファイル利用について）」から一部引用した形となっている。また、論文集（学会誌）のテンプレートに準じたフォーマットとしている。異なる点は英文抄録(Abstract)の作成に関してで、詳細は3.3をご確認ください。

１．緒　　言

このテンプレートファイルは、JSDカンファレンスの原稿体裁を整えて投稿することができるように、フォントサイズなどの書式を設定し、登録したスタイルファイルである。1行の文字数、1ページの行数など定められた形式で作成することができる。本ファイルの内容は、日本機械学会発行の「投稿論文作成について（日本機械学会指定テンプレートファイル利用について）」[1]から一部引用した形となっている。

用紙はA4縦とし、余白は上下左右いずれも20 mmとする。本文の文字数は、1ページ当たり、50文字×50行×1段組で2500字とする。また、文章の区切りには全角の読点「、」と句点「。」を用いる。カッコも全角入力する。

本文中の文字の書式は、明朝体・Serif系（Times New Roman推奨）を利用する。

２．このテンプレートファイルの使い方

このテンプレートの表題（副題）、著者名、本文などはあらかじめ本会指定のフォントサイズなどの書式が設定されている。この書式を崩さずに入力すれば、文字数、行数など定められた体裁で原稿を作成することができる。しかし、絶対的な出来上がりのレベルを保証するものではないので、体裁が望むレベルに達しない場合には、使用の環境に合わせ、投稿者各自において微調整を行うなど、本会の論文集掲載の体裁に最も近い設定を行う必要がある。

なお、書式を崩してしまった場合は、段落内にカーソルを置き、［ホーム］リボンの「スタイル」ボックスで、指定したいスタイルをクリックすると体裁を容易に整えることができる。

３．原稿執筆の手引き

３．１　原稿の規定ページ数

カンファレンス予稿のページ数は4～6ページ以内を標準とする。表現が冗長にならないように留意すること。なお、原稿のページ数は偶数になるように収める。

３．２　原稿作成

原稿の冒頭には、和文の表題・副題、英文の表題・副題、著者名、所属機関、及びメールアドレスを入れる。

３．３　英文抄録の書き方

長さは150～200語程度で、途中で改行をしないで、本文と切り離してそれだけを読んでも、予稿の内容が具体的に分かるように研究対象、研究方法・装置、結果について書く。また、本文中の図・表・文献は、引用しない。カンファレンス原稿において、英文抄録を作成することは必ずしも求めないので、著者の任意とする。

３．４　キーワード

キーワードは、論文の内容を代表する重要な用語である。キーワードは、日本語で5～10語とし、本文を執筆した後に書くのが望ましい。

３．５　量記号・単位記号の書き方

量記号はイタリック体、単位記号はローマン体とする。無次元数はイタリック体で書く。

３．６　用いる単位について

単位は、SI単位を使用する。数学記号・単位記号及び量記号は、半角英数字を使用する。なお、SI単位については、「JISZ8203 国際単位系（SI）及びその使い方」を参照する。

３．７　用いる記号

数学記号は、JISZ8201に従う。また、量を表す文字記号（量記号）は、JISZ8202に従う。なお、数字の書き方は、表1の例に従う。年度の表し方については、本年または昨年などとせず、かならず2007年のように西暦ではっきり記述する。

|  |  |
| --- | --- |
| 正 | 誤 |
| 0.357 | .357 |
| 3.141 6×2.5 | 3.141 6・2.5 |

表1　数字の書き方



図1　推定結果の比較

４.　図及び写真・表の作成に関して

（1）本文中では、図1、表1のように日本語で書く。写真は、図として扱う。

（2）図表番号及びそのキャプションは、図についてはその下に、表についてはその上に書く。

（3）図の軸ラベル、単位を明記する。

（4）本文と、図・表の間は1行以上の空白を空けて、見やすくする。

（5）図中・表中の題目もすべて日本語で書く。ゴシック体を利用し、9ポイントの大きさで記載する。

（6）図及び表の横に空白ができても、その空白部には本文を記入してはならない（表１，図１参照）。

（7）図及び表は、余白部分にはみ出してはならない。

５．数式の書き方

数式は、一般的な数式エディタ（MathType、Microsoft数式3.0等）を利用し、Serif系フォントで式(1)のように別行に記す。かっこの使い方は式(1)に示す通りとする。

 （1）

数式が見づらくならないよう、数式の前後に１行分の空白行を挿入する。数式のポイント数は本文に準ずるものとするが、添字等が見づらくならないように適宜ポイント数を増加させる。

６.　引用文献の書き方

本文中の引用箇所には、小括弧をつけて、通し番号を付ける。例えば、Doshi & Trivedi [2]、日暮里・田町[3]のようにする。引用文献は、本文末尾に番号順にまとめて書く。また、日本語の文献を引用する場合は日本語表記とし、英語の文献を引用する場合は英語表記とする。

７.　結　　　語

本テンプレートファイルのスタイルを利用すると、各々の項目の書式が自動的に利用できるので便利である。

参考文献

[1] 日本機械学会：投稿論文作成について（日本機械学会指定テンプレートファイル利用について）, 日本機械学会2016年度年次大会論文集, 2016.

[2] A. Doshi & M. Trivedi. Investigating the relationships between gaze pattern, dynamic vehicle surround analysis and driver intentions, Intelligent Vehicles Symposium: 887–892, 2009.

[3] 日暮里太郎・田町次郎：論文の書き方、システムダイナミックスvol. 14, no. 1, 12–21, 2015.

**【投稿前の確認事項】**

**前頁のフォーマットを参照しながら、投稿前に以下の確認をお願いします。**

**１．章立て・フォント**

**（１）フォントの大きさはそれぞれの部分で規定どおりですか？**

**特にタイトル、アブストラクトなどの１ページ目と参考文献の最終ページを確認願います。**

**（２）空行の設定はフォーマットどおりですか？**

**（３）章節立ては一連番号になっていますか？**

**（４）文章やタイトルの文字に間違いはないですか？**

**２．図表**

**（１）図表のタイトルの書式と位置はフォーマットの規定どおりですか？**

**（２）内容を読みとることができる図表になっていますか？**

**単なるイメージ図になっていないでしょうか？**

**（３）図表はグレースケール印刷で明瞭でしょうか？**

**（４）図表の番号はそれぞれ一連番号になっていますか？**

**（５）図表を本文で引用していますか？**

**（６）図表は各ページの有効領域に入っていますか？**

**（７）全ての図表に、番号とタイトルが付いていますか？**

**３．その他**

**（１）参考文献の番号は一連番号になって引用されていますか？また、本文中で引用されていますか？**

**（２）標準１２ページに収まっていますか。あるいは、最大１６ページとなっていますか？**

**（３）引用元を明記せずに他者の文章を全部または一部流用して記載することは剽窃行為に相当し、研究者倫理に違反しますのでご注意下さい。**

**（４）企業の広告と思われるような表現はありませんか？**

以　上

2017年9月29日　改定